君の思いは必ず実現する

稲盛和夫

「京セラ」という会社の名前を、聞いたことがありますか。従業員二十八人の小さな工場としてスタートし、今では世界的に有名な大企業へと発展を成し遂げた、様々な部品や製品の専門メーカーです。

京セラは、一九五九年（昭和三十四年）に、※ファインセラミックスの専門メーカー「京都セラミック株式会社」として京都市で操業を開始しましたが、この会社を作ったのは、当時まだ二十七歳の、鹿児島出身の若者でした。現在では京セラの名誉会長を務め、

【京セラ本社】

【ファインセラミックス】
無機材料で非金属の物質を高温で焼いた新素材。硬くて熱に強い性質を持ち、携帯電話などエレクトロニクス製品や各種産業向けに必要な部品として幅広く利用されている。

日本を代表する企業経営者として活躍を続ける、稲盛和夫という人です。

今回、その稲盛さんから、お話を聞かせてもらうことができました。

稲盛さんは、一九三二年（昭和七年）に、七人兄弟の二男として鹿児島市の薬師町で生まれました。当時、稲盛さんの家は印刷業を営んでおり、子どものころに毎日聞いていた印刷機械の音は、今でも思い出せるそうです。

稲盛さんは、鹿児島玉龍高校から鹿児島大学工学部へと進学し、その後、二十三歳で鹿児島を出て、京都の松風工業という会社へ

【関連年表】

一九三二年　誕生

一九三八年
西田小学校入学。

一九四五年
鹿児島中学校に入学。

一九四八年
鹿児島市高等学校第三部に入学。

一九五〇年
鹿児島玉龍高校に編入。

一九五一年
鹿児島大学入学。

一九五九年
京都セラミック株式会社を設立。

一九八四年
稲盛財団を設立。

就職します。学生時代までを過ごした鹿児島の魅力について、稲盛さんは、次のように語ってくれました。

「一つは、城山の上から見る鹿児島市街と、錦江湾と桜島が一体となった景色。これは素晴らしいものです。仕事で世界中を訪れますが、どこに行っても、あの鹿児島の美しい景色のことを思い返しています。

もう一つは、多くの人が、優しく、思いやりを持っていること。特に、都会に出てきて、色々な人と出会っていると、鹿児島の方々の人柄のよさというのは、本当に素晴らしいと思います。」

稲盛さんは、二十三歳で就職した松風工業で、ファインセラミッ

【考えてみよう】

あなたが思う鹿児島の魅力について、話し合ってみよう。

【鹿児島市街と桜島】

（写真協力：（社）鹿児島県観光連盟）

クスの研究に没頭する日々を送りました。そして、その四年後の二十七歳の時に、稲盛さんは、七人の仲間と一緒に独立を果たし、京都セラミック株式会社を設立します。

資金も実績もない中での、大変な挑戦でしたが、必死の思いで仕事に打ち込んだ結果、この会社は一年目から※黒字を記録しました。その後、稲盛さんらが開発する高性能の部品は、海外からも注目を集めるようになり、こうして「京セラ」は、世界的な企業へと発展を遂げて行きます。

この会社の創業者・経営者として、考え、実践してきたことについて、稲盛さんは、次のように語ってくれました。

「誰にも負けたくないという思いと、だから努力だけは人一倍し

【黒字】
利益を上げること。

ようということ。そしてそれを、五十年以上続けてきたことです。

継続は力なり、と言いますが、まさに、どんな単純な仕事でもいいから、それに一生懸命に打ち込んで、継続していくということ。名人とか、達人とか言われる人も、全ては努力を続けていった結果であると思います。そういうことが、今日の私や、現在の京セラを作ってくれたのだと思います。」

稲盛さんは、自らの企業経営の一方で、一九八四年（昭和五十九年）には「※京都賞」を創設し、社会の進歩発展に貢献した方々への表彰を行っています。また、「※盛和塾」の塾長として、若手経営者の育成にも力を注いでいます。

【京都賞】

一九八四年（昭和五十九年）に創設された国際賞。人類の発展に貢献した世界の優れた科学者や哲学者、芸術家などへの表彰を行う。受賞者には、メダルと五千万円の賞金が贈られる。

【盛和塾】

一九八九年（平成元年）に設立された全国の若手経営者の集まり。

そんな稲盛さんは、二〇一〇年（平成二十二年）に、ＪＡＬ（日本航空株式会社）の会長への就任を依頼されました。倒産したＪＡＬの再生を託されたのです。

周囲の人達からは大反対されましたが、稲盛さんは、この難事業を無給で引き受け、ＪＡＬの改革を推し進めました。このときの経験について、稲盛さんは、次のように語っています。

「人生で一番大事なことは、世のため人のために貢献することです。このことは、自分の会社の従業員にもずっと言い聞かせていましたから、今回のお話も、自信もないけれど、世のため人のためになるんだったら引き受けましょう、と引き受けました。

引き受けてからは、ＪＡＬの全社員に対して、知識やテクニック

ではなく、「人間として正しい生き方をしよう」と話しました。すると、それに皆がだんだん応えてくれるようになり、ＪＡＬの業績もみるみる変わっていきました。

今回の経験で感じたのは、会社を良くするためには、リーダーの考え方、思いが大事であるということ。そして、そのことは、どんな会社でも変わらないということです。」

まだ記憶に新しい二〇一一年（平成二十三年）三月十一日、東日本大震災が発生しました。東北地方を中心に、多くの方々が犠牲となり、また、それでも冷静に行動する日本人の姿は、世界の人々から驚きと称賛の声を集めました。

【稲盛会館】

卒業生である稲盛さんの寄贈により、一九九四年（平成六年）、鹿児島大学に完成。

教育及び学術交流の場として活用されている。

今、日本人に最も必要なものは何だと考えるか、稲盛さんに尋ねると、次のように答えてくれました。

「東日本大震災は、背筋が寒くなるような、恐ろしい大災害でした。しかし、この大変な困難にめげないで、嘆き悲しむのではなくて、必死で生きてほしいと思います。

私自身が、誰にも負けない、負けてたまるかという思いで今までやってきただけに、なおさらそう思うのかもしれません。

それには、何よりも、勇気とガッツが必要だと思います。日本人が発揮した素晴らしい人間性と、それに加えて、どんな困難にもめげないガッツを出してほしい。

この大震災は、我々日本人への試練だと思って、その試練をなに

くそとはね返していく。そういうものが必要だったし、今からでも必要なんだと思います。」

最後に、これを読んでいる皆さんへ、稲盛さんからのメッセージを紹介します。

「鹿児島の子どもたちに、特に言ってあげたいのは、辛抱することの大切さです。素直で良い子どもたちなんだけれども、辛抱強くはないな、と思うときがある。

鹿児島は、気候も暖かいし、そこに住んでいる人達の心も、明るくて、優しい。そこに辛抱強さが加われば、鬼に金棒なんです。

勉強でも、仕事でも、研究でも、辛抱強く継続して続けていくと

【稲盛和夫さん】

【話し合ってみよう】

稲盛さんが皆さんに一番伝えたかったことは、何だろうか。

いうこと。何をするにしても、どんなことがあろうとも、辛抱して、続けること。それが、成功の秘訣です。

君の思いは必ず実現する。このことを信じて、大きい夢を描き、ひたむきに努力を重ねてください。二十一世紀の世界を担う、若い皆さんの活躍を、心から期待しています。」